

平成 27 年度理学部卒業予定者アンケート

理学部では、平成 28 年 1 月から 2 月末にわたり平成 27 年度理学部卒業予定者を対象に大学生生活全般に関するアンケートを実施した。今回の対象者は、平成 19 年度学部改組後 6 回目の卒業生に当たり、246 名中 198 名から回答があった。回収率は 80%であった。

「Ⅰ．分析と今後の教育へのフィードバック」は平成 28 年度理学部の各コース長が担当した。また、「Ⅱ．集計結果」は理学部大学点検評価委員会が受け持った。

Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック

【数学コース】

数学コース卒業予定者 52 名のうち 42 名から回答があった。以下では、項目に分けて分析を行い、それを踏まえて今後の教育へどのように活かしていくかを述べることにする。なお、過去 5 年間のアンケート結果を必要に応じて引用する。その際に、各年度のパーセンテージを（22 年度、23 年度、24 年度、25 年度、26 年度）のように表すことにする。

【全般的な質問】

「高知大での勉学や生活で満足できたもの」のうち、もっとも多かったのは、昨年と同じ「友人との出会い」で 76%である。ちなみに昨年度までは（74%、83%、70%、70%、86%）であった。2 番目が「研究室での卒研やゼミ」60%であり、昨年度までの（57%、63%、72%、51%、57%）とほぼ同様である。3 番目は「授業」と「先生との出会い」が同数で 48%になっており、これらも昨年度までと大きくは変わっていない。全体に見て年度ごとに多少の増減はあるが、ほぼ毎年同じ傾向にあり、大学生の一般的な傾向と考えられる。

「高知大での勉学や生活で満足できなかったもの」のうち、最も多いのが「授業」であり 36%となっている。これは昨年度までの（57%、27%、33%、37%、36%）とは大きく変わっていない。この点については改善の必要があるが、授業ごとにアンケートなどを行い、できる限り受講生の希望を授業に反映させるようにしているが、学生の希望も多岐にわたっており、なかなか成果が上がっていないようである。今後とも、積極的な改善を行っていく必要がある。2 番目に多いのが「課外活動」であり 21%となっている。昨年度までの推移は（11%、27%、23%、37%、31%）である。

教育研究施設（学習環境）については、満足・ほぼ満足を合わせると 79%である。5 年間の推移（89%、94%、90%、89%、78%）を見ると、昨年度に続きやや低くなっているが、ほぼ不満は無いと考えてよさそうである。

就職支援活動については、満足・ほぼ満足を合わせると 57%となり、昨年度までの（66%、61%、78%、79%、71%）と比べてやや減っている。ボランティア活動への参加は 45%と昨年度までの（37%、29%、32%、44%、36%）とあま

り変わらず、また、満足・ほぼ満足の合計は 92%で、これまでの（93%、100%、84%、90%、100%）と同じくボランティア活動をした学生にとっては、よい経験であったようである。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は、もっとも多かったのが 20～29 で 43%になっている。満足した理由については、「親切で丁寧な授業であった」が最も多く 74%（昨年度までは 60%、63%、67%、53%、52%）、「専門分野の実力がついた」がそれに続き 62%（昨年までは 63%、50%、63%、47%、64%）であり、そして「教員の熱意が感じられた」が 3 番目で、40%となっている。

満足できなかった授業の数は、9 以下が最も多く 50%であり、10～19 がそれに続き 33%となっており、この 2 つを合わせると 83%になる。毎年、満足できない授業数が少なくなっていくように感じられる。満足しなかった理由では、例年と異なり「実力がつかなかった」が 48%と最も多く（昨年度までが 37%、46%、28%、47%、24%、20%）、「不親切でわかり難い授業」40%（昨年度までは 49%、44%、57%、37%、52%）、「一方的な押し付け授業だった」38%（昨年度までは 38%、38%、45%、35%、43%）とそれに続く。

【標準履修モデル】

内容や難易度について、基礎科目も専門科目も、ともに 95%が「適切に配置されていた」あるいは「概ね適切に配置されていた」と答えており（昨年度まで、基礎科目 90%、94%、98%、96%、93%、専門科目 95%、90%、98%、95%、93%）不満はないようである。教育目標と履修モデルについて合致していたかについても 95%が肯定的な回答であった（昨年度までは 80%、91%、88%、93%、93%）。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対しては、「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」を合わせると 67%あり、また「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」という要望に対しては、「あまりそう思わない」と「全く思わない」が、同じく合わせて 67%いる。このことから、より高度な内容の授業を受けたいと考えている学生が多いと思われ、学生の積極的な姿勢がうかがえる。ただし、この傾向が単年度のものであるか、毎年続くものであるかは今後のアンケートの結果を見る必要がある。ただ、一般には、学生の希望より若干高度な内容の授業が良い授業であるという考え方があり、その意味では、これからは若干レベルを上げるようにする方向が良いのかもしれない。

「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対しては、「あまりそう思わない」が 50%と最も多く、「概ねそのとおりである」が 26%とそれに続く。具体的な要望としては、例年と同様にコミュニケーション能力や社会人としての一般常識に関することが多い。これらは数学の専門教育というより、一般教養の範疇にはいる内容であろう。ただ、「社会と数学との関連」という要望もあり、数学の応用面についても授業の中で触れるようすべきであろう。

【成績評価】

成績評価については、「適切であった」と「概ね適切であった」を合わせると 71%であり、ほぼ適切に行われていると考えてよいが、否定的な回答も 29%あり、昨年度までの(6%、13%、15%、14%、21%) と比べると若干増えている。ただ、否定的な意見もほとんどが「適切でない授業もあった」というもので、「たくさんあった」と答える者は1名のみであった。

【授業改革】

授業科目数と内容の適切さについては否定的な回答は 10%と少ない。昨年度までも(12%、2%、5%、0%、7%) であり、科目数としては適当と考えて良いと考える。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員制度については、全員が肯定的な回答をしている。昨年までも肯定的な回答は(94%、96%、95%、93%、98%) であり、おおむね適切に機能していると考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

自由意見には、「3 年生の頃からゼミの仲間と高めあっていたらよかった」や「数学科の学生にもう少し理学部棟に勉強できる場所を与えて欲しいです」という意見があった。一般に実験系のコースは研究室や実験室にこもって作業をする必要があるが、数学は基本的には個人で勉強するという形になる。そのため、他のコースから見ると、大学にいないてはならない時間や、共同で作業する時間などが少なくなってしまう、それが少し寂しいと感じるのかもしれない。学問の性質上致し方ない部分ではあるが、積極的に学びたいという希望のある学生には、早い時期からゼミ形式の指導ができるようなカリキュラムにすることも今後考えていくべきだろう。

最後に、ほとんどの卒業生が「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかった」と考えており、学部およびコースの教育は適正であったと考えている。

【物理科学コース】

平成24年度、25年度、26年度、27年度の4年分のアンケート結果と以前のものとを比較し、それに基づいて分析を行い、今後の物理科学コースの教育等はどう生かしていくかについて考える。平成24年度、25年度、26年度、27年度の物理科学コース卒業予定者15名、24名、20名、28名のうちそれぞれ4名(27%)、12名(50%)、19名(95%)、21名(75%)から回答を得た。以下で各年度のパーセントを(24年度、25年度、26年度、27年度)で表すことにする。平成24年度は回収率が少ないために参考程度の取り扱いとした。

【全般的な質問】

「高知大での勉学や生活で満足できたもの」のうち、研究室での卒研やゼミ(58%、74%、90%、86%)、「先生との出会い」(75%、42%、42%、71%)である。「研究室での卒研やゼミ」昨年度急激な増加を見せた状態でほぼ維持しており、平成24-27年度で一番満足できた

ものであった。また、今年度に特徴的なことは「先生との出会い」が40%程度から71%へと急激に上昇したことである。これは、物理科学コースの教員が学生指導により熱心に取り組んでいることの表れであろう。この背景には物理科学コース教員の急激な減少にともなう教員の意識改革があると思われる。「友人との出会い」は（75%、58%、58%、57%）は約60%程度で比較的高い満足度である。研究室での活動と先生、友人のつながりが満足度が高いのは、研究を通じた協力関係がうまくいっていることを示しており、少人数教育の利点であろう。授業については「高知大での勉学や生活で満足できたもの」（50%、33%、26%、48%）と30%程度の低い数値から向上している一方、「高知大での勉学や生活で満足できなかったもの」（0%、25%、26%、33%）も一定の割合存在している。これらの結果を総合的に判断すると、各教員が研究室の教育だけでなく授業の向上に向けた様々な取り組みを実施してきたことの表れであるが、授業の満足度向上に向けては教員のさらなる努力が必要であろう。満足できないもののうち数値的に無視できないのは課外活動であり、（25%、25%、16%、33%）であった。課外活動を満足できるものと回答した学生は（50%、33%、26%、38%）と依然相対的には多いが、物理科学コースの教員の努力だけではなく、大学全体で検討する必要のある課題であろう。

教育研究施設（学習環境）についての満足度は、満足、ほぼ満足を合わせると（90%、92%、84%、71%）であり、今年度若干減少しているが、教育研究施設（学習環境）はほぼ整っていると考えて良いであろう。

高知大学の就職支援活動については、満足、ほぼ満足を合わせると（36%、50%、42%、79%、48%）であり、大きな波がある。就職室の就職支援は手厚いものがあるが、自由応募が主流であるために、就職室の支援を知らないことも一つの理由かもしれない。教員が就職に関しても積極的に取り組む必要があると思われる。

ボランティア活動への参加は（0%、8%、42%、29%）と数値的には高くはないが、教員はボランティア活動の支援をほとんどしていないことから判断すると、適当な数値であろう。しかし、満足、ほぼ満足と答えた学生はうち（NA、100%、75%、83%）であり満足度は非常に高い。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は40以上（25%、17%、16%、24%）、30-39（0%、25%、16%、14%）、20-29（0%、25%、32%、38%）、10-19（25%、33%、21%、19%）、9以下（27%、50%、0%、16%、5%）となっている。年度によってばらつきがあるが、満足できた授業の数が30以下の割合が高い。満足できた授業の数が30以上については、一定数確保できている。満足した主な理由は、「専門分野の実力がついた」（100%、75%、37%、52%）、「親切で丁

寧な授業であった」(91%、100%、58%、74%、71%)、「教員の熱意が感じられた」(25%、42%、21%、38%)であった。満足できなかった授業の数は、40以上(0%、0%、0%、0%)、30-39(9%、0%、0%、16%、5%)、20-29(0%、8%、11%、19%)、10-19(30%、17%、32%、24%)、9以下(100%、75%、42%、52%)となっている。満足しなかった主な理由で比較的多かったのは、「実力がつかなかった」(18%、50%、67%、42%、33%)、「一方的な押し付け授業だった」(27%、50%、33%、32%、29%)、「内容が体系的でなく断片的だった」(25%、17%、5%、29%)。

受講科目にはおおむね満足しているものの、授業に対する不満の声も若干あり、さらに工夫を凝らした学生に満足を与える授業を行う努力が必要である。

【標準履修モデル】

基礎科目の内容や難易度について満足、ほぼ満足を合わせると(75%、92%、89%、81%)、専門科目の内容や難易度については(75%、92%、74%、86%)であり、多くの学生が肯定的にとらえている。教育目標と履修モデルについて合致していたかについては肯定的な回答が(64%、75%、83%、79%、90%)と増加傾向にあり、標準履修モデルは適切であると思われる。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」、「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対しては、どの年度もそう思う者とそう思わない者がだいたい半分ずついる。また「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対し、肯定的な回答は(25%、58%、42%、38%)であり、やや減少傾向にある。高度な知識を求める学生が多くなっていると思われる。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対しては、肯定的な回答が(50%、42%、26%、33%)程度であり多くはない。これは物理科学コースに来る主な動機が、グローバルなことを学びたいことであるためであろう。しかし、大学の方針を反映して無理のない程度に社会に出て役立つことを授業に盛り込む工夫は行ってもいいかもしれない。

【成績評価】

成績評価の方法が適切かについては、否定的な回答が(75%、25%、32%、24%)一定数ある。原因は不明であるが、少なくともレポート・定期試験において、同じ間違いでも学生により減点の度合いが違ような初歩的な間違いはしていないので、理由を知った上で対策したい。

【授業改革】

授業科目数と内容が適切かについては、足りないという回答が(25%、25%、5%、10%)あった。

受講者数の少ない授業科目もあり、単純に科目数を増やすのは現実的ではないが、内容の不足は、各授業の内容を見直すことである程度補えるであろう。また、もし極端に受講者数の少ない授業（基幹科目は除く）があれば、学生のニーズに応じて新規科目に変えていくことも考えられよう。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援が適切かについては肯定的な回答が(75%、89%、90%、95%)と良好である。これは、最近大学での取り組みが強化され、教員の意識も向上したことが理由であろう。

【自由意見】

意見がないのが常であるが、平成24年度には地方国立ならではの特長についての意見が、平成26年度には自由な校風や授業のあり方に関する意見が寄せられた。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

アンケートの分析で浮かび上がったことは、学生の勉強や研究に対して取り組む姿勢の向上である。これは、社会の高度化に伴って社会の求める人材「自発的」であり「高度な基礎力」を有する学生であることも関係しているかもしれない。特に、「高知大での勉学や生活」、「研究室での卒研やゼミ」、「先生との出会い」に高い満足度が得られているのは、学生の熱心な取り組みと教員の努力がうまくからみあったものであろう。授業に関してもほぼ満足が得られているようであるが、満足できない割合も一定数いる。これに対しては、最近大学で強化された授業向上への取り組みを活用して、各教員が一層の努力を行っていく必要があるが、科目数の不足に関しては教員数の減少で難しいところがあるが、相互授業参観などを通して科目間の調整等を工夫していきたい。

【化学コース】

平成23-27年度の5年間のアンケート結果を比較・検討した。各年度の回答率は、H23:100% (14/14) , H24: 94% (15/16) , H25: 24/21 (114%) , H26: 19/15 (127%) , H27: 5/14 (35%) であった。

以下で各年度のパーセントを(23年度, 24年度, 25年度, 26年度, 27年度)で表すことにする。なお、H27年度は回答者が5名と少なく、一人当たり20%と回答率が高くなる点を考慮して欲しい。

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の1位と2位は、5年間を通じて「友人との出会い」(86%, 80%, 58%, 74%, 100%), 「研究室での卒研やゼミ」(79%, 67%, 46%, 37%, 40%)であり、研究室での研究活動の評価が40%と低くなってきている。また、「授業」(29%,

27%, 21%, 16%, 0%) は、20%前後で減少傾向にある。また、“高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち、「授業」は 36%, 13%, 42%, 58%, 40%となっており、年度ごとにばらつきはあるものの、恒常的に 40%以上はあるように思われる。授業アンケートやFDなど授業改善に向けたより一層の努力が求められる。また、注意を要する傾向として、「先生とのトラブル」(14%, 13%, 7%, 0%, 20%), 「友人とのトラブル」(0%, 20%, 4%, 5%, 20%) が極わずか生じている。人間関係をうまく構築できない学生が増加しつつ現状から、今後はアドバイザー教員制度等を通じたコミュニケーション作りなど、孤立化を防ぐ対策が望まれることから、コースとして専門授業での欠席数を第8週目に調べ対応している。

“教育研究施設(学習環境)”についての満足度は、満足とほぼ満足を合わせると93%, 93%, 79%, 64%, 80%であった。H25年度より15%以上減少していることは気がかりであるが、学習環境は十分に整っていると考えられる。“高知大学の就職支援活動”については、「満足できた」と「満足できなかった」の回答が、43%/36%, 60%/20%, 51%/41%, 37%/16%, 40%/0%であった。ここ数年の厳選採用を反映しての結果と思われるが、様々な就職支援活動への低い出席状況を考え合わせると、一部学生の他力本願的な就職活動にも問題があることも踏まえての対策が必要であると思われる。“ボランティア活動への参加”について、「ある」(21%, 53%, 13%, 32%, 0%) は、数値的にはそれほど高いとは言えない。H27年度は回答者が少なかったことと化学コースの場合、演習・実験などに費やされる時間が多く、ボランティア活動に時間を割く余裕がないことが考えられる。

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は40以上(21%, 20%, 17%, 5%, 0%), 30-39(0%, 7%, 29%, 11%, 0%), 20-29(29%, 40%, 13%, 32%, 60%), 10-19(21%, 27%, 33%, 21%, 20%), 9以下(29%, 7%, 8%, 32%, 20%)となっている。年度によってばらつきがあるが、年度を経るごとに満足できた授業の数が減少傾向にある。“満足した理由”については、「親切で丁寧な授業であった」(57%, 73%, 67%, 42%, 60%), 「専門分野の実力がついた」(43%, 53%, 58%, 42%, 40%), 「教員の熱意が感じられた」(21%, 20%, 33%, 16%, 20%)となっており、H27年度は平均的な回答であった。“満足できなかった授業”の数は、40以上(29%, 0%, 0%, 11%, 40%), 30-40(7%, 0%, 13%, 5%, 0%), 20-30(14%, 0%, 20%, 32%, 20%), 10-20(0%, 40%, 13%, 21%, 0%), 10以下(50%, 60%, 54%, 32%, 40%)となっている。“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」(57%, 73%, 58%, 58%, 80%), 「一方的な押し付け授業だった」(50%, 47%, 38%, 58%, 40%), 「実力がつかなかった」(43%, 33%, 33%, 16%, 40%)などと高い、授業によって評価が分かれた結果であると判断されるが満足できなかった授業が高い数値になっている点は授業ごとにさらなる改善

が求められる。

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について、いずれも肯定的な回答が、毎年80%を超えている。“教育目標と履修モデルについて合致していたか”についても、肯定的な回答(78%, 87%, 83%, 90%, 100%)が得られている。

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して、より高度な授業を積極的に望む回答をした人は21%, 0%, 13%, 16%, 40%であった。また“難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい”という要望に対して、否定的な人は78%, 74%, 75%, 69%, 0%であり、例年全体的に現状の授業レベルを下げてほしいと望む人が多かったがH27年度はない。“実験実習の時間を増やしてほしい”と希望する人は72%, 60%, 54%, 53%, 20%と減少している。一方で、“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”と希望する人は、57%, 53%, 15%, 57%, 40%とほぼ一定であり、ビジネスマナー、敬語など具体的な要望に関する記述がある。社会に出て役立つ実践的な授業の要望が一定数望んでいる。

【成績評価】

“成績評価”については、肯定的な回答が(86%, 87%, 92%, 63%, 80%)とH26年度のみ減少したが例年概ね肯定的である。ただし、適切でない授業もあるとの指摘もあるので各授業で成績評価の明確な基準を学生に伝えることが重要と思われる。

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については、肯定的な回答(93%, 100%, 79%, 84%, 100%)が大勢を占めている。

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については、肯定的な回答が96%, 87%, 88%, 89%, 60%であり、多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようであるが、H27年度は減少している。

【自由意見】

理学部の教育や高知大学理学部全般について、意見は寄せられていない。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

ここ数年来、教員のFDおよび授業アンケートやピア・サポートの実施に加え、老朽化した学生実験室の改修工事などソフト&ハードの両面で教育環境の改善がなされているが、改修後に入学している26年度学生は満足度が落ちている。また、特に授業のレベルや進め方について、「親切で丁寧な授業であった」、「専門分野の実力がついた」、「教

員の熱意が感じられた」など肯定的な回答が落ちており、研究室での卒論やゼミに対する満足度も減少傾向である。また授業について「不親切でわかり難い授業」、「一方的な押し付け授業だった」、「実力がつかなかった」と否定的な回答を寄せる学生も存在している。これらを総合的に判断すると学生の勉学意欲を高め、学習習慣を身に付けさせることで、学力のボトムアップを図るとともに、現状の授業レベルを維持しながら、深淵な知識を獲得できる授業を展開し、より高度なレベルをめざす学生の要望にこたえる工夫も必要である。また、新たな傾向として先生のみならず友人との人間関係に悩む学生が増えており、大学生活に適応出来ず孤立化しがちな学生を早期に発見し、救済する支援システムの構築が望まれる。

【生物科学コース】

【回収状況】

卒業生 41 名のうち、28 名から回収され、回収率は 68%であった（一部の設問への回答は 24 名）。昨年度の回収率は 40%と落ち込んだが、一昨年度（65%）と同程度に回復した。

【全般的な質問】

・高知大学での勉学や生活で満足できたもの

回答の多い順に「友人との出会い」79%、「研究室での卒研やゼミ」57%、「先生との出会い」46%、「課外活動」36%、「親からの自立」32%「授業」29%、「その他」4%（部活動）

「友人との出会い」が 79%で、平成 24 年度の 92%、平成 25 年度の 79%、平成 26 年度の 69%と比較すると平均的であった。「研究室での卒研やゼミ」の 57%も、平成 24 年度の 68%、平成 25 年度の 77%、平成 26 年度の 50%であったことから、昨年同様にやや低い。「先生との出会い」も 46%で、平成 24 年度の 66%、平成 25 年度の 49%、平成 26 年度の 31%から、やや回復した。「授業」の 29%は、平成 24 年度の 42%、平成 25 年度の 23%、平成 26 年度の 27%と比較すると昨年と同程度である。

・高知大学での勉学や生活で満足できなかったもの

「授業」22%、「先生との関係」18%、「課外活動」18%、「親からの自立」14%、「研究室での卒研やゼミ」11% 「友人との関係」7%、その他（アルバイト）7%

「授業」は 22%で最も高かったが、平成 24 年度の 37%、平成 25 年度の 38%、平成 26 年度の 31%と比較すると、これまでで一番低い。複数回答であるが、選択数がほぼ回答者数であり、評価は困難である。

・教育研究施設（学習環境）への満足

「満足できた」39%、「ほぼ満足できた」57%、「あまり満足できなかった」4%、「満足で

きなかった」0%

「満足できた」と「ほぼ満足できた」と感じた学生は96%と高く、ほぼ学生の要求を満たしているといえる。

- ・高知大学の就職支援活動への満足度

「満足できた」4%,「ほぼ満足できた」46%,「あまり満足できなかった」38%,「満足できなかった」12%

「あまり満足できなかった」と「満足できなかった」と感じた学生は50%で、平成24年度の13%、平成25年度の23%、平成26年度の33%から上昇している。回答者数が少ないため評価は困難である。

- ・在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動への参加について

「ある」29%,「ない」71%

ボランティアに参加した学生は、例年通りであった。

- ・ボランティアに参加した学生の満足度

「満足できた」62.5%,「ほぼ満足できた」37.5%,「あまり満足できなかった」0%,「満足できなかった」0%

参加学生8名の満足度は100%であった。

【受講科目の感想】

- ・満足できた授業数

「40以上」21%,「30～39」14%,「20～29」39%,「10～19」21%,「9以下」4%

満足できた授業数20～40以上で74%であった。平成24年度の52%と平成25年度の60%に比べ、平成26年度の77%と同様に高いため、概ね満足しているようである。

- ・満足した理由

「専門分野の実力がついた」64%,「親切で丁寧な授業であった」43%,「教員の熱意が感じられた」36%,「授業内容が斬新だった」21%,「教材を工夫していた」14%,「授業が一方的でなかった」11%,「その他」0%

「専門分野の実力がついた」64%は昨年(62%)と同様で、「教員の熱意が感じられた」36%(昨年19%)と「教材を工夫していた」14%(昨年4%)は上昇したが、「親切で丁寧な授業であった」43%(昨年58%)はやや低下した。

- ・満足できなかった授業数

「40以上」0%,「30～39」4%,「20～29」19%,「10～19」19%,「9以下」58%

満足できなかった授業数 20~40 以上は 23%で、昨年度の 16%よりやや高かった。

・満足できなかった理由

「不親切でわかり難い授業だった」43%,「一方的な押し付け授業だった」36%,「実力がつかなかった」21%,「教員の熱意が感じられなかった」18%,「教材の工夫が見られなかった」7%,「内容が古すぎた」0%,「内容が体系的でなく断片的だった」4%,「その他」0%

上位 3 つは昨年同様の順番であったが、「実力がつかなかった」割合は昨年の 39%から減少している。

【標準履修モデル】

・基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたか

「配置されていた」14%,「概ね配置されていた」79%,「あまり配置されていなかった」4%,「配置されていなかった」4%

「配置されていた」と「概ね配置されていた」を合わせて 93%を占め、問題はないと思われる。

・専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたか

「配置されていた」25%,「概ね配置されていた」68%,「あまり配置されていなかった」7%,「配置されていなかった」0%

「配置されていた」と「概ね配置されていた」の合計が 93%を占め、問題はないと思われる。

・教育目標は標準履修モデルと合致していたか

「合致していた」18%,「概ね合致していた」79%,「あまり合致していなかった」7%,「合致していなかった」4%

「概ね合致していた」と「合致していた」の合計が 97%を占め、問題はないと思われる。

【専門科目への要望】

・より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見

「全くそのとおりである」7%,「概ねそのとおりである」54%,「あまりそう思わない」39%, 「全く思わない」0%

「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」の合計が 61%を占め、半数以上の学生がより高度な授業を望んでいるといえる。

・「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対する

あなたの意見

「全くそのとおりである」 0%, 「概ねそのとおりである」 32%, 「あまりそう思わない」 54%, 「全く思わない」 14%

「概ねそのとおりである」が 32%であり、例年と同程度であった（平成 24 年 33%, 平成 25 年 25%, 平成 26 年 31%）。

・「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見

「全くそのとおりである」 32%, 「概ねそのとおりである」 39%, 「あまりそう思わない」 29%, 「全く思わない」 0%

増加を求める回答が 71%と高いが、過去 3 年に比べるとやや低い（平成 24 年度 79%, 平成 25 年度 84%, 平成 26 年度 89%）。野外実習の増加は、定員と安全性、すでに余裕の無い日程の調整などから、現状では難しい。

・「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見

「全くそのとおりである」 32%, 「概ねそのとおりである」 32%, 「あまりそう思わない」 29%, 「全く思わない」 2%

社会に出て役立つ授業を求める回答は 64%であり、昨年の 50%から増加している。ただし、具体的な例では、「社会人のマナー」や「パソコンや基本ソフトの使い方」など共通教育に関係する内容が多い。人間の生活に関連した生物学の基礎知識など専門講義に関連したもの、プレゼンテーション能力、コミュニケーションや人間関係など卒業研究や研究室のゼミを通じて高められるが、これらは本人の意欲と積極性次第であろう。

【成績評価】

・成績評価の方法は適切であったか

「適切であった」 25%, 「概ね適切であった」 58%, 「適切でない授業もあった」 13%, 「適切でない授業がたくさんあった」 4%

「適切であった」と「概ね適切であった」の合計が 71%であり、「適切でない」とする割合の合計（17%, 4 名）は昨年と同程度であった。学生の自己採点は、教員の採点よりもかなり甘い傾向にあるため致し方ない。

【授業改革】

・授業科目数と内容は適切か

「適切である」 25%, 「概ね適切である」 75%, 「足りない」 0%, 「多すぎる」 0%

回答した学生のすべてが適切と考えるので、数も内容も妥当と思われる。「足りない」と「多すぎる」の回答はないが、「オムニバスの授業が減らす」との意見もあった。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援は適切であったか

「適切であった」58%,「概ね適切であった」42%,「あまり適切でなかった」0%,「適切でなかった」0%

回答したすべての学生が適切だと感じていたため、問題はないであろう。

・総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったか

「とてもよかったと思う」38%,「概ねよかったと思う」63%,「あまりよかったと思わない」0%,「よかったと思わない」0%

回答したすべての学生がよかったと感じていたため、問題はないであろう。

【教育全般についての意見】

自由記述にいくつかの意見が寄せられた。そのうち、所属研究室への配属や卒業研究の開始時期、研究室での活動を早く開始できないかという趣旨の意見があった。取得単位数など卒業要件を満たすことを考えると、現状の3年次11月の研究室配属の時期を早めることは難しいかもしれない。本人の強い興味と積極性により研究室に早めに入入りして活動することは、配属以前から可能である。単位の取得上限設定について適切ではないとの意見があるが、成績優秀者になれば上限が解除される制度があるため、各自の奮起が望まれる。講義の難易度のばらつきについての意見があった。生物学に対する学生の基礎学力の低下から、とくに必修科目の難易度は徐々に低くなってきたと考えるが、知識の高い学生にはより高度な内容が学べる書籍や文献を紹介するなどの対応が可能であろう。授業をきっかけとして、学生が教員とのコミュニケーションを積極的に計ることを促せば解決できると考える。自ら考え学ぶ授業の増加について要望があったが、現在コースの学生数が多いため、専門科目で少人数のグループワーク型の授業や実習の実施は難しいが、今後の検討課題である。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

平成27年度の卒業生は41名であり、例年よりも15から20名程度少なかったためか（昨年は65名で卒研履修者57名）、「研究室での卒研やゼミ」57%と「先生との出会い」46%は、昨年それぞれ50%と31%であった割合から改善している。適正な人数により、教員とのコミュニケーションが増えた結果であるかもしれない。全体を通じてアンケートの多くの設問において、例年通りの傾向であった。授業については、今回のアンケート結果からも現状で概ね問題ないと考えられる。授業に満足できなかった理由に関しては、「実力がつかなかった」と回答した学生の割合が大きく減少し、過去2年とは異なっていた（平成25年38%、26年39%、27年21%）、この割合の減少が続けば、授業改

善の成果といえるかもしれない。卒業研究に関しては、就職活動との両立ができずに、かなり期間研究を中断する学生あるいは就職活動が終わってから卒業研究に取り組む学生も多い。早めに研究室と研究への関わりを多くすること、学生同士や教員との関係を深めることが、最終的には大学での満足度の上昇、社会で役立つスキルや人間力の向上につながると思われる。現在の教員 1 名当たり卒論生最大 5 名は多いため、3 から 4 名が適正と考える。今後の検討課題である。

就職支援に関しては、「満足しなかった」割合が年々増えて、前年の 33%から 50%となっている。この問題に関しては、アンケートの設問を追加しないと原因が推測できないであろう。

【地球科学コース】

平成 27 年度末は、卒業予定者 8 名中 7 名からアンケートが回収された。回収率は 88%と悪くないものの、回答数が 1 桁と少ないので、気になる点を中心に簡単にコメントするに留める。

【全般的な質問】

「高知大学における勉学や生活で満足できたもの」に関する回答は学部全体の傾向とほぼ同じである。一方「満足できなかったもの」としては 8 名中 3 名が「授業」を挙げたのに対して、「研究室での卒研やゼミ」や「先生との関係」を挙げた回答が一人もなかったのは良かった。

【受講科目の感想】

「満足できた授業」、「満足できなかった授業」に関する回答はいずれも幅が広く、理学部全体と比べて特に変わった傾向は見られない。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」か、「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルをさげしてほしい」か、を問う設問に対しては、前者の方がやや多い傾向が読み取れる。「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対しては 7 名中 6 名が「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」と答えた。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切か」、との問いには、7 名全員が「適切」または「概ね適切」と回答しており、特に問題はない。

【授業改革】

「授業科目数と内容」については 7 名中 5 名の学生が「適切」または「概ね適切」と回答しており、大きな問題はなさそうである。

【アドバイザー教員制度】

7 名中 5 名の学生が「アドバイザー教員の指導・支援」が「適切であった」と答えている。高知大学理学部で学んだことに対して 7 名中 5 名が「おおむね良かった」と答えており、おおむね満足して卒業していると言える。

【自由記述】

「キャンパス間バスが欲しい」という記述は、授業や卒論でコアセンターに通った学生の意見と思われる。また、学部改組に伴って、地球科学コースが解体されることを惜しむ声もあった。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

アンケート結果は例年とほぼ同様の結果であり、在籍する学生は少ないものの満足度の高い教育を実施していることが今回も確認できた。

以下、アンケート結果とは直接関係しないが、改組後のコースの教育について付記する。地球科学コースで行われてきた内容の教育活動は、来年度入学生からは、改組に伴って、地球環境防災学科と生物科学科に分かれて行われる。今後は、これまでのコース運営の経験を活かして、それぞれの新学科のなかでこれまで実施してきた教育を新たな形で進めていく必要がある。理学の中に地球科学というくくりが厳然と存在する以上、今後は学科、さらには学部を越えた連携も必要となるだろう。

一方、来年度は、改組前に入学した学生が、留年者を別にしても 3 学年分在籍することになり、彼らには現体制の教育を責任を持って維持し、実施しなければならない。実質的に同じ分野での教育が継続される多くの他コースと異なり、地球科学コースでは、改組後の新学科と異なる学科に分かれた教員による組織で旧コースも維持する二重体制となるので、運営には細心の注意が必要である。

【情報科学コース】

平成 27 年度 26 名の卒業生数で回答は 23 名、回答率は 88%である。

【全般的な質問】

勉学や生活で「満足できたもの」は、回答の多い順に「研究室での卒研やゼミ」、「友人との出会い」、「先生との出会い」、「授業」、「課外活動」、「親からの自立」である。これらから教員と学生との人間関係が大変良好であると推察される。また、「満足できなかったもの」の回答順では「課外活動」、「授業」、であるが、これらは回答者のうちの 5 分の 1 から 4 分の 1 程度が、これを多いとみるか少ないとみるかは判断に迷いどころである。「教育研究施設（学習環境）への満足」では、「満足」、「ほぼ満足できた」が大半であり、「あまり満足できなかった」はわずか（1 人）である。このことから、本コースが有効な教育施設拡充

ができた」と推察される。

「就職支援活動は満足か」は、半数が「満足」「ほぼ満足」、4分の1が「あまり満足できなかった」「満足できない」であり、残りは回答なしで「どちらとも言えない」といったところか。

「公認・非公認のボランティア活動への参加」は、ほとんどが「ない」であり、全体にボランティア活動への意識は低いといえるが、参加した学生の満足度は高い。

【受講科目の感想】では、受講科目の「満足した科目数」は回答数がA,B,C,D,E ほぼ均等に分布しており、学生によって満足度が大きく異なることが分かる。

満足の理由としては、「専門分野の実力がついた」、「親切で丁寧な授業であった」などが特に多く、つづけて「教員の熱意が感じられた」、「教材を工夫していた」、「授業が一方的でなかった」などが挙げられており、様々な点で教員が専門教育に工夫を凝らしているしていると推察される。また、不満足の理由としては、満足の理由をそのまま逆転したものとなっている。これは、回答がA～E 均等に分布したことから当然予想されることである。

【標準履修モデル】

「基礎科目は、内容・難易度で適切に配置しているか」では、「概ね配置」されていた以上が殆どを占める。

「教育目標と標準履修モデルとの合致」は、「概ね合致」以上で占められる。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容の実施への意見」では、「概ねそのとおり」以上が大半を占め、また、「難しすぎる授業が多すぎる」に対する回答は「あまりそう思わない」が大半であり、より高度な授業への希望が強いことがうかがえる。さらに、「社会に出て役立つ授業」への希望も多い。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切か」は、「概ね適切」、「適切」が多数であった。

【授業改革】「各学科開設の授業科目数・内容は適切か」は、「概ね適切」が多数である。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援は適切か」は、「適切」が多数である。

【分析と今後の教育へフィードバック】

アンケート結果と分析から、次のことがわかった。

- 1)教員と学生との人間関係は、良好であり、今後もこの関係を保つ努力が必要である。
- 2)教育研究施設（学習環境）も満足されており、維持に努める必要がある。

- 3)就職支援活動は、半数に不満があるため、改善が必要である。
- 4)公認・非公認のボランティア活動へは学生のほとんどが参加していない。
- 5)情報科学コース教員は、ていねいで熱意を持つ専門教育を今後も維持する。
- 6)基礎科目の内容・難易度と配置は適切である。
- 7)専門科目の内容・難易度と配置は適切である。
- 8)成績評価は適切である。
- 10)学科開設科目数適切である。
- 11)アドバイザー教員制度が良好に機能している。
- 12)学問基礎論は意味がないという意見が多かった。

以上のアンケート結果および分析結果から、現状の教員と学生との人間関係、教育施設の拡充、就職支援体制を保ちつつ、また、ていねいに熱意を持った専門教育をさらに充実させる努力に加え、授業への多様なニーズ（高度な内容、社会で役立つ内容）を満たす工夫に努力して、多様な学生の学習欲に応じた教育内容の提供を目指していく。

【応用化学コース】

平成23-27年度の5年間のアンケート結果を比較・検討した。各年度の回答率は、H23：79%（23/29），H24：74%（20/27），H25：25/30（83%），H26：18/26（69%），H27：24/30（80%）であった。

以下で各年度のパーセントを（23年度，24年度，25年度，26年度，27年度）で表すことにする。

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の1位と2位は、5年間を通じて「友人との出会い」（83%，85%，80%，72%，75%），「研究室での卒研やゼミ」（52%，90%，56%，50%，42%）であり，研究室での研究活動の評価が低くなってきている。また，「授業」は39%，35%，20%，17%，17%で減少傾向であり，H25年度に急減し低いままである。“高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち，「授業」は22%，25%，40%，44%，38%であった。H25年度に急増し約40%で継続している。また，例年「課外活動」（30%，35%，16%，16%，13%）についてもH25年度に急減し，大学生活全体に期待したような充実感を得ていない学生がいるようである。

“教育研究施設(学習環境)”についての満足度は，満足とほぼ満足を合わせると92%，95%，88%，83%，79%で減少気味であるが，学習環境は十分に整っていると考えられる。“高知大学の就職支援活動”については，「満足できた」と「満足できなかった」の回答は61%/30%，70%/20%，68%/20%，78%/23%，58%/17%となっており，「満足できた」という回答が減少している。“ボランティア活動への参加”について，「ある」（26%，20%，24%，28%，29%）は，数値的にはそれ

ほど高いとは言えない。応用化学コースの場合、特に4年生では卒業研究などに費やされる時間が多く、ボランティア活動に時間を割く余裕がないにもかかわらず参加者がいる。なお、ボランティア活動への参加者は全員その活動にほぼ満足している。

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は40以上(13%, 15%, 4%, 0%, 13%), 30-40(17%, 25%, 28%, 22%, 21%), 20-30(26%, 5%, 44%, 33%, 25%), 10-20(30%, 50%, 20%, 28%, 29%), 10以下(13%, 5%, 4%, 17%, 13%)となっている。年度によってばらつきがあるが、全般的に年度を経るごとに満足できた授業の数がわずかながら減少傾向にある。“満足した理由”については、「専門分野の実力がついた」(57%, 80%, 60%, 56%, 42%), 「親切で丁寧な授業であった」(65%, 50%, 52%, 39%, 46%), 「教員の熱意が感じられた」(35%, 35%, 32%, 28%, 38%)となっており、教員の教育努力が認められるが、実力が伸びていない。“満足できなかった授業”の数は、40以上(9%, 0%, 0%, 0%, 8%), 30-40(4%, 20%, 0%, 11%, 21%), 20-30(17%, 0%, 12%, 28%, 29%), 10-20(26%, 15%, 28%, 28%, 21%), 10以下(43%, 65%, 60%, 33%, 17%)となっている。“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」(65%, 60%, 36%, 61%, 46%), 「一方的な押し付け授業だった」(43%, 45%, 16%, 28%, 33%), 「実力がつかなかった」(26%, 20%, 20%, 16%, 25%)などとなっており、授業は改善されつつあると受け止められている反面、実力は伸びていないが20%と続いている。

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について、肯定的な回答が、90%, 80%, 84%, 90%, 96%と毎年高い。“教育目標と履修モデルについて合致していたか”についても、肯定的な回答(92%, 95%, 96%, 83%, 92%)が得られている。

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して、より高度な授業を積極的に望む回答をした人は13%, 25%, 28%, 6%, 17%であった。また“難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい”という要望に対して、否定的な人は83%, 95%, 76%, 78%, 62%であり、全体的に現状の授業レベルを望む人が多いようである。“実験実習の時間を増やしてほしい”や“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”という要望に対して、それぞれ希望する人は60%, 85%, 56%, 66%, 66%や69%, 40%, 44%, 44%, 54%であり、コミュニケーション能力の向上、機器等の扱いなど具体的な要望に関する記述が数件あった。

【成績評価】

“成績評価”については、肯定的な回答が83%, 95%, 96%, 72%, 71%となっており、概ね適切な評価が行われているといえるが、“適切でない授業もあった”も21%と続いている点が気になる。

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については、肯定的な回答(96%, 85%, 96%, 86%, 87%)が大勢を占めていた。授業改革に関する具体的な記載はなかった。

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については、肯定的な回答が92%, 100%, 88%, 94%, 92%であり、多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである。

【自由意見】

理学部の教育や高知大学理学部全般について、意見は寄せられていない。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

ここ数年来、教育熱心な若い先生方を迎え入れ、老朽化した学生実験室の改修工事が進むなど、教育環境の改善がなされており、一定の効果が得られているように思われるが、特に授業のレベルや進め方について、「親切で丁寧な授業であった」、「専門分野の実力がついた」、「教員の熱意が感じられた」など肯定的な回答が 50%程度であり、研究室での卒論やゼミに対する満足度が減少傾向である。また、授業について「不親切でわかり難い授業」、「一方的な押し付け授業だった」、「実力がつかなかった」と否定的な回答を寄せる学生も存在しており、学力の二極化が進んでいるとともに学生の勉学意欲が落ちているように思われる。特に成績不振学生については早期に発見し、学習習慣をしっかりと身に付けさせる早期ケアが必要である。また、現状の授業レベルを維持しながら、高度な知識と応用力を獲得できる授業を展開し、意識の高い学生の要望にこたえる工夫も必要である。また大学での人間関係に悩む学生が増えており、大学生活に適応出来ず孤立化しがちな学生を発見し、救済する支援システムの構築が望まれる。

【海洋生命・分子工学コース】

[27 年度の数字に続いて26 年度の数字を括弧内に示した]

卒業予定者33 (45) 名のうち35 (25) 名から回答を得た。回答率は106 (56) %である。昨年と比べてほぼ倍増している。副専攻ジェネラルの学生に対するアンケート回収も十分であったことによる為であると思われるが、2名過剰なのは謎である。

【全般的な質問】

大学で満足したこととしては、「友人との出会い」が 86% (72%) でトップであった。昨年トップの「研究室での卒研やゼミ」は40% (88%) とやや低迷しているが、副専攻ジェ

ネラルを選択した学生が多かったことが原因と思われる。驚くべき事に「先生との出会い」が 49%（不明）と次点につけている。一体、どの教員との出会いが満足だったのか、コースの一教員としては理解に苦しむ（或いは選択肢を間違えて回答したのかもしれない）。一方、満足できなかったこととしては、「研究室での卒研やゼミ」と「課外活動」が26%で上位であった。前者は副専攻ジェネラルを選択した学生が多かったことが原因であろう。後者は自己責任の問題故、コメントはしない。教育研究施設（学習環境）については「満足できた」と「ほぼ満足できた」が合計で83%（92%）と、昨年に続き高い数字となった。高知大学の設備の充実が、学生たちに支持されている結果である。就職支援に関して「満足できた」と「ほぼ満足できた」が合計で50%（68%）となっており、「あまり満足できなかった」と「満足できなかった」の合計と同率であった。希望の職種に付けなかった学生が増えているのかもしれないが、そもそも大学は職業訓練機関ではないので、致し方ない面もあろう。コースの就職委員の先生は良くやっている方だと思う。

【理学部に関する質問】

満足できた授業の数に関して、26年度は「10～20」が20%、「20～30」が48%であったのに対して、27年度は「10～19」が23%、「20～29」が31%となった。「30以上」が40%もあるのが驚きであったが、単位を取りやすい授業が増えたのだろうか。満足した理由については「親切で丁寧」が54%（60%）、「教員の熱意」が40%と上位を占めている。教員の努力が評価されていると考えられる。一方で「専門分野の実力がついた」が37%（88%）と大きく低下しているが、学生の実力から推察するに、昨年度の88%という数字は「単なる勘違い」に基づいたものであり、37%程度が妥当と思われる。満足できなかった授業の数については、「9以下」が46%（48%）で最も多く、次いで「10～19」が23%となっている。満足できなかった理由については「不親切でわかりにくい」が50%を占めている。

【標準履修モデル】

基礎科目については「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が94%（84）を占め、肯定的な回答結果であった。専門科目についても「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が91%（100%）であり、同様な傾向の回答であった。また、コースの教育目標と標準履修モデルが合致していたかとの問いには、全員「合致していた」「概ね合致していた」と回答しており、十分な結果である。「より高度な授業をしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」が51%（64%）である反面、「あまりそう思わない」と「全く思わない」も46%ある。「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望は、「概ねそのとおりである」が34%、「あまりそう思わない」が49%であったことから、両者の妥協点として、現状維持で良いと考えられる。「実験実習の時間を増やしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおり」あるいは「概ねそのとおり」と答えた学生は74%（58%）と増えているが、その割に選択必修の実験科目の履修状況は満員御礼ではない（また、卒業研究も全員が熱心に行っているとは思えな

い)。尚、実験科目は2時間連続となるため、これ以上の増加はカリキュラム上、不可能である。「社会で役立つことを授業に増やしてほしい」という要望に対する意見としては、「概ねそのとおりである」と「あまりそう思わない」が拮抗している。しかしながら、何が役立つかは予測も困難で、個人ごとでも異なるであろう。そもそもにおいて、理学部に来ておきながら「役立つこと」云々を述べるのが間違っていると考ええる。

【成績評価・授業改革・アドバイザー制度】

成績評価の方法については、「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は80% (80%) であり、昨年と同率であった。理学部が開設している授業科目数と内容に関しては、「適切である」「概ね適切である」と答えた学生は80% (92%) であった。アドバイザー教員の指導・支援については「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は86% (89%) とほぼ昨年並みの高い値であり、この制度が十分に機能している結果と考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

友人や教員との出会いが、大学で満足したこととしてのアンケートで上位を占めた。思ったほど学生には嫌われていないのが意外である。理学部に関するアンケートでは、授業の満足度は良好であるが、満足しなかった理由を踏まえた自助努力が必要とされる。標準履修モデルは、基礎科目、専門科目ともに肯定的である。社会で役立つ授業の要求が少なからずあるが、理工学部改組で工学的な内容の授業が増えることで対応できると考える。アドバイザー制度は順調に機能している様子であり、この制度の継続が望まれる。

【災害科学コース】

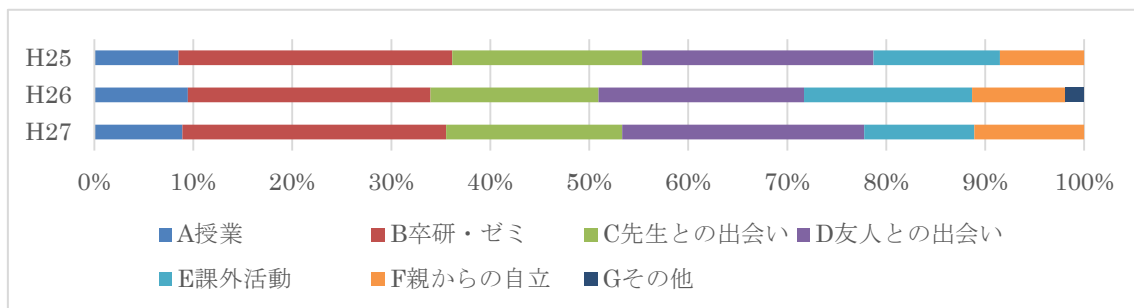
平成 27 年度とあわせて平成 25 年度、平成 26 年度の災害科学コース卒業予定者からの回答について、項目ごとに分析を行い、それを踏まえて今後の教育へどのように活かしていくかを述べる。

	卒業予定者数	回答者数	回答率
H25 年度	13	13	100 %
H26 年度	17	16	94
H27 年度	14	13	93

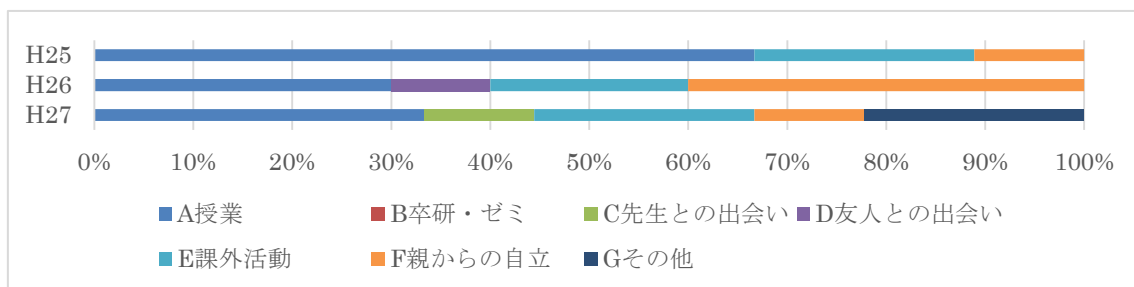
なお、所属学生が少ないため、一人の回答が約 8%の重みを持っている。

【全般的な質問】

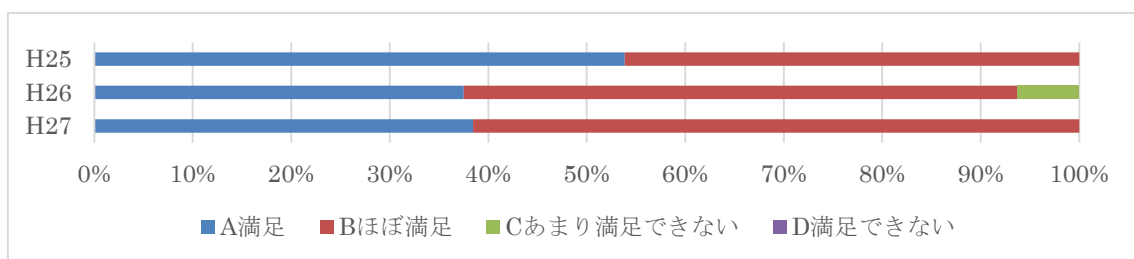
2. 「高知大での勉学や生活で満足できたもの」に対する回答では、「卒研・ゼミ」と「友人との出会い」とするものが多く、年度による差はない。



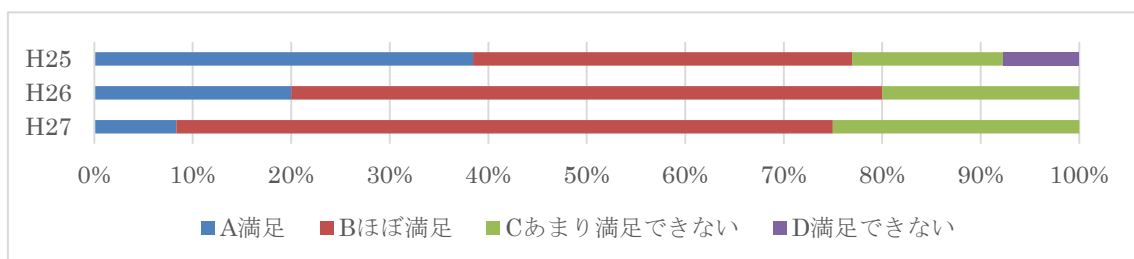
3. 「高知大での勉学や生活で満足できないもの」に対する回答では、「授業」や「課外活動」が多い。授業については平成 25 年度に比べると約半分程度になっている。



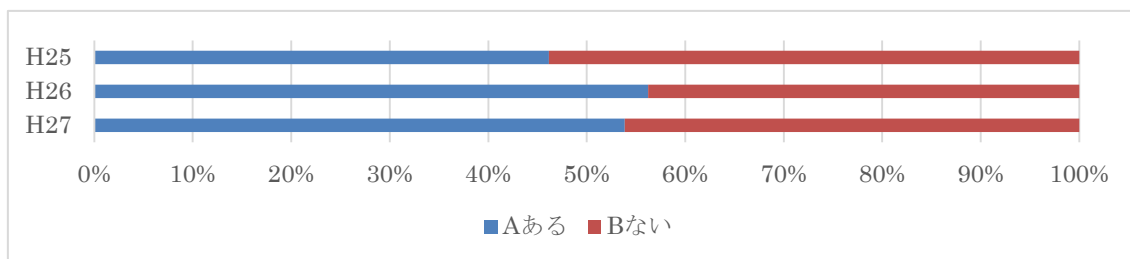
4. 「教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか」に対する回答では、「満足＋ほぼ満足」が 90%以上である。



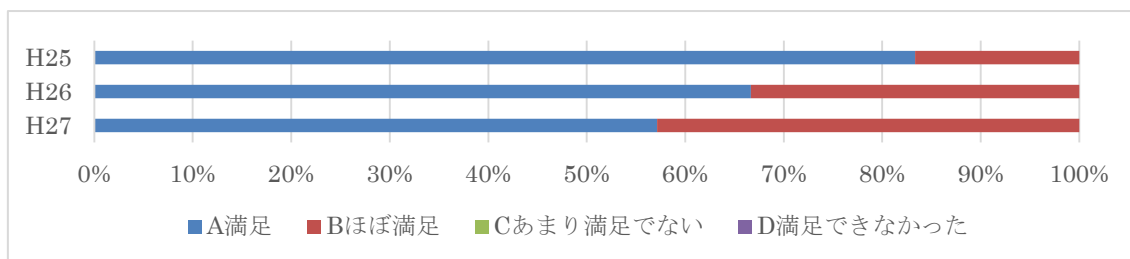
5. 「高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか」に対する回答では、「満足＋ほぼ満足」の割合が 70 数%台である。ただし、「満足」という回答が減っている。



6. 「在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか」に対する回答では、約半数が「はい」と回答している。

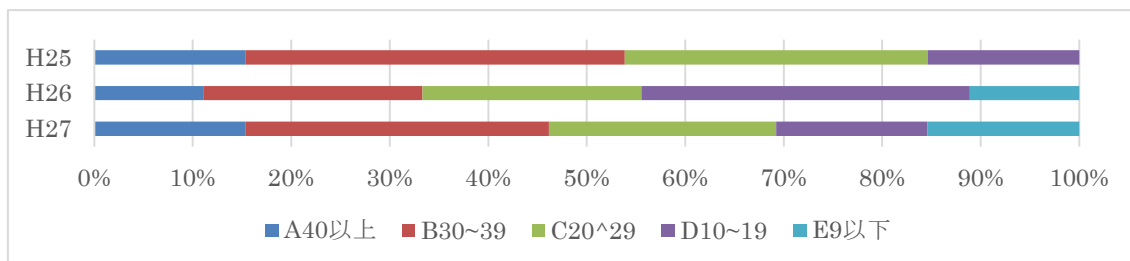


7.「その活動は満足いくものでしたか」に対する回答として、約 60%近くが「満足」と回答し、「ほぼ満足」を合わせると 100%となっている。

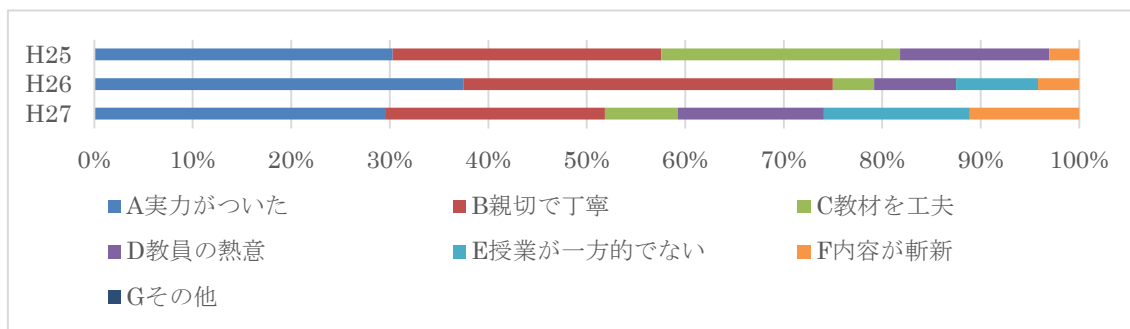


【受講科目の感想】

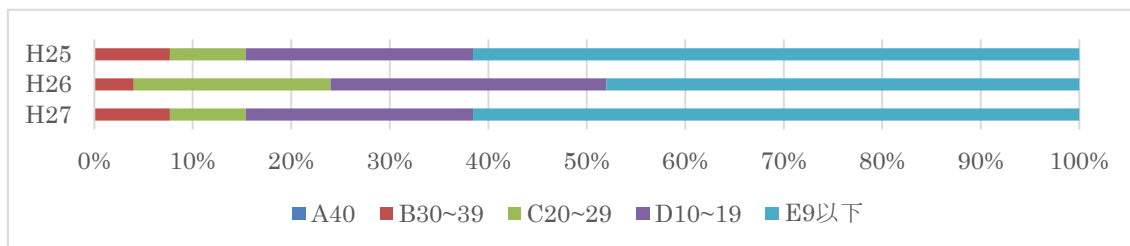
8.「あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）の印象をお聞きます。満足できた授業の数はおおよそいくつでしたか。」に対する回答では、年度によりバラツキがあるが 30 以上という回答が約 30%から 50%である。



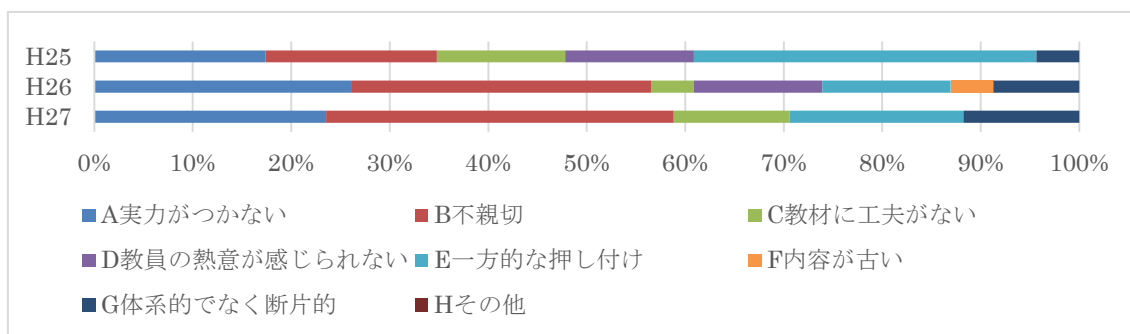
9.「満足した理由を下記より選んでください。（複数回答可）」に対する回答では、「実力がついた」が約 30%でもっとも多く、「親切で丁寧」も 20%から 30%と多かった。



10.「理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）のうち、満足できなかった授業の数はおおよそいくつでしたか」に対する回答では、「9 以下」が 50%から 60%であった。

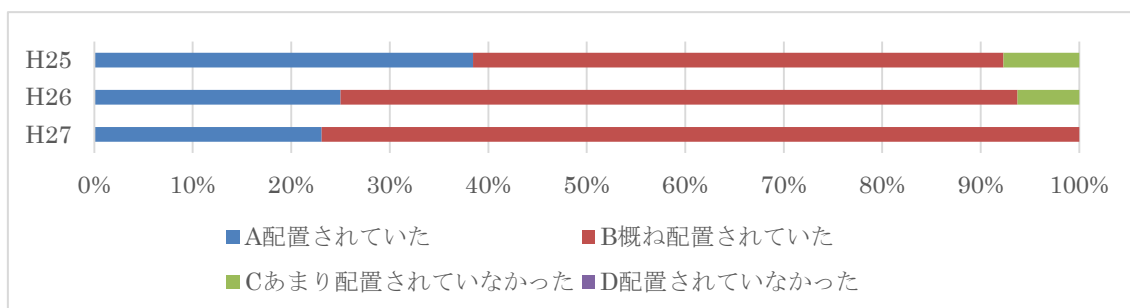


11. 「満足しなかった理由を下記より選んでください。(複数回答可)」に対する回答としては、「不親切」が多く、続いて「実力がつかない」であった。

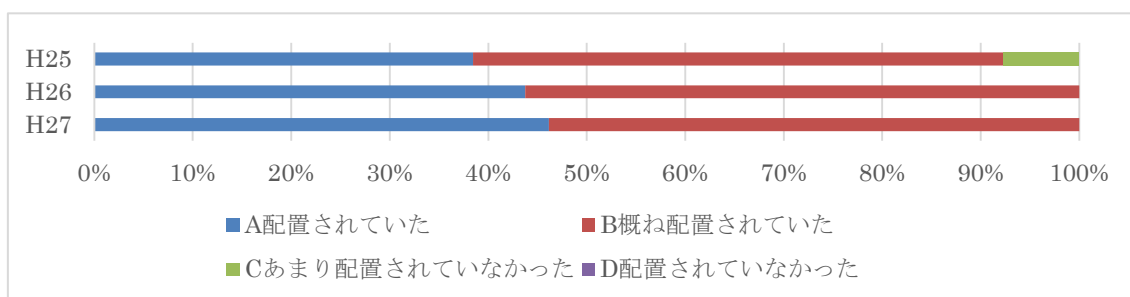


【標準履修モデル】

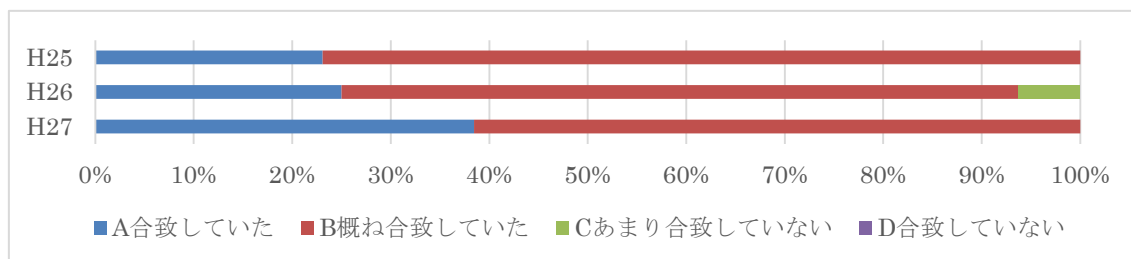
12. 「基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたか」に対する回答として、「配置されていた+概ね配置されていた」で90%以上であった。



13. 「専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたか」に対する回答として、「配置されていた+概ね配置されていた」が90%以上であった。

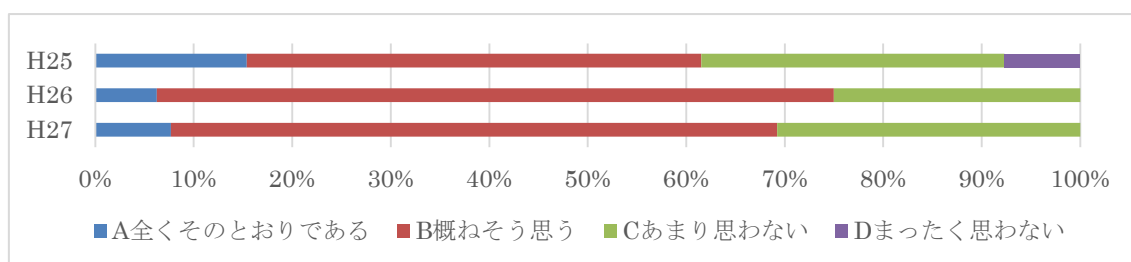


14. 「各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください）。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか」に対する回答として、「合致していた＋概ね合致していた」でほぼ 100%であった。

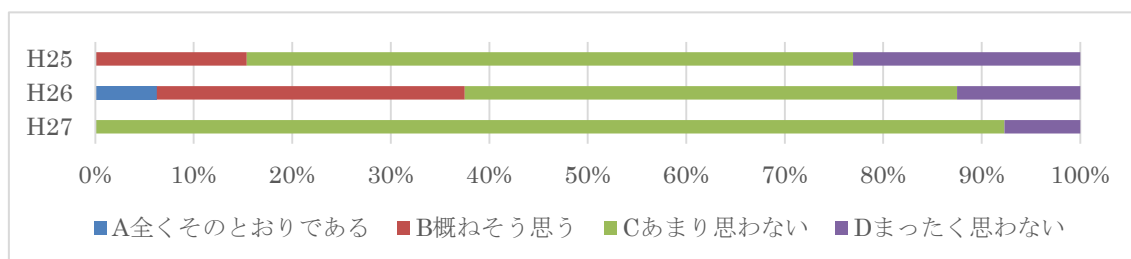


【専門科目への要望】

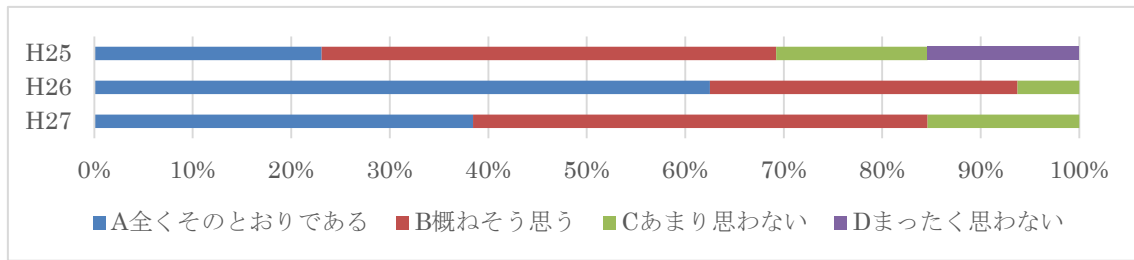
15. 『「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます』に対する回答として、「全くそのとおりである＋概ねそう思う」が約 70%であった。一方、「あまり思わない」が年度に関わらず 30%程度存在する。



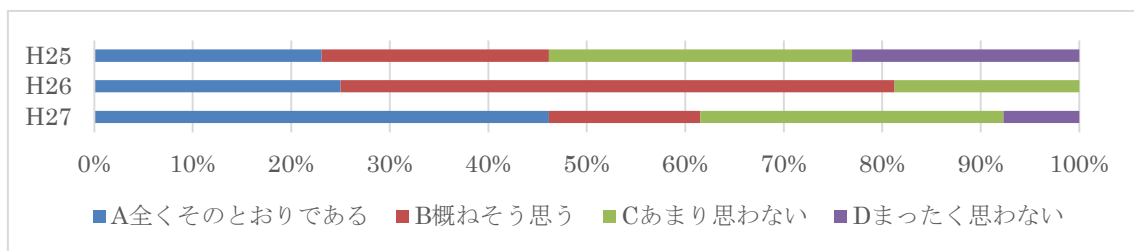
16. 『「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます』に対する回答として、平成 27 年度では「あまり思わない」が 90%を超えており、「全くそのとおりである」や「概ねそう思う」という回答がなかった。



17. 『「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます』に対する回答として、「全くそのとおりである＋概ねそう思う」が 70%から 90%であった。



18. 『「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます』に対する回答として、「全くそのとおりである＋概ねそう思う」が50%から80%であった。



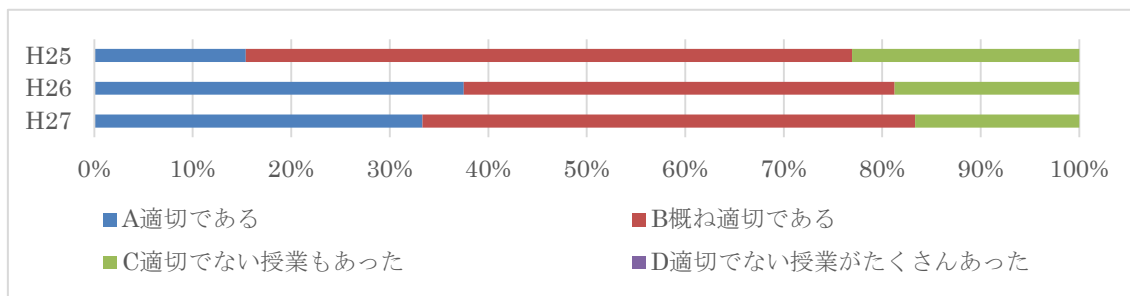
19. 「18 で A あるいは B を選択した人にお聞きます。社会に出て役立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。」に対する回答は、専門分野に関するのではなく、一般教養やビジネスマナーに関する要望が多かった。

○災害科学(防災科学)コース(H27)

- ・ビジネスマナーに関する授業（接待など）
- ・一般教養
- ・例えば将来の職につながる授業
- ・コミュニケーション能力の向上。
- ・プレゼン能力
- ・コミュニケーション能力。
- ・個人の将来設計などが具体的であるかや、大丈夫であるか確認するようなこと。

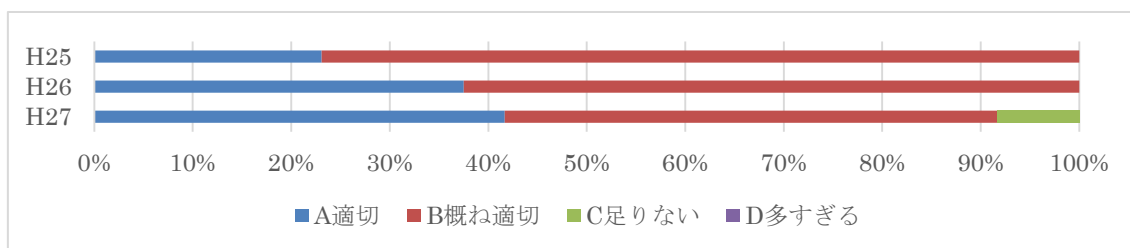
【成績評価】

20. 「これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか。」に対する回答として、「適切である＋概ね適切である」が約80%であった。



【授業改革】

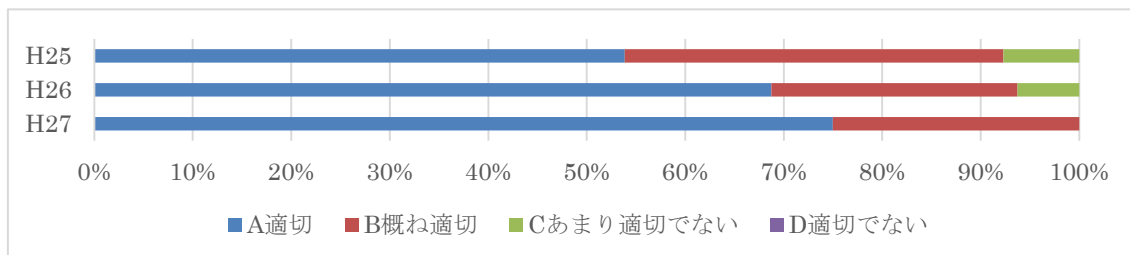
21. 「理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思いますか」に対する回答では、「適切+概ね適切」で90%以上であった。



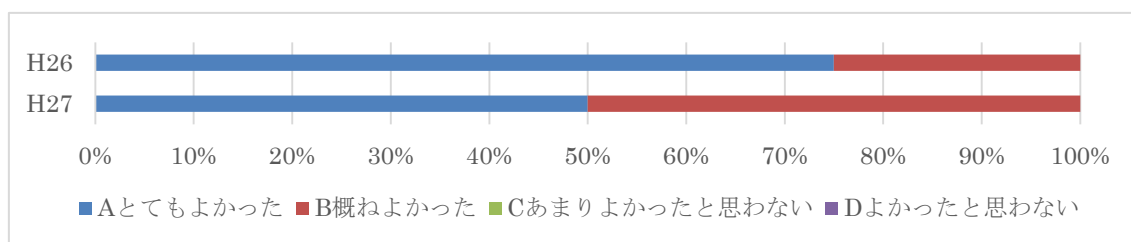
22. 「21 で C あるいは D を選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください。」に対する平成 25・26・27 年度卒業予定者の記述はなかった。

【アドバイザー教員制度】

23. 「アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか」に対する回答では、「適切+概ね適切」が90%以上であった。



24. 「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったと思いますか」に対する回答では、「とてもよかった+概ねよかった」という回答が100%であり、「とてもよかった」との回答が50%以上であった。



【自由意見】

25. 「理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください」に対する記述が 8 件（平成 25 年度）、2 件（平成 26 年度）、4 件（平成 27 年度）あった。品詞分析によりキーワードを抽出した結果は次のようになった。「楽しい」や「よい・良い」などの評価するワードが多い。

名詞	スコア	出現頻度	動詞	スコア	出現頻度	形容詞	スコア	出現頻度
授業	0.59	7	思う	0.01	5	楽しい	0.10	5
先生	0.05	3	感じる	0.05	3	よい	0.02	3
英語	0.09	3	行う	0.04	3	多い	0.01	2
コース	0.20	3	伝える	0.06	2	やすい	0.03	2
科目	1.54	3	できる	0.00	2	近い	0.06	2
学問	1.38	3	とる	0.02	2	こい	0.02	1
専門	0.14	2	学べる	0.32	2	良い	0.00	1
学生	0.07	2	おくれる	0.17	1	すごい	0.00	1
環境	0.09	2	もてる	0.32	1	はやい	0.02	1
学部	0.97	2	増やす	0.01	1	つらい	0.01	1
もう少し	0.15	2	つく	0.01	1	ほしい	0.01	1
生活	0.04	2	ほる	0.01	1	---	---	---
研究室	0.64	2	恵まれる	0.09	1	---	---	---

○災害科学(防災科学)コース(H27)

- ・先生と学生のキョリが近くて楽しい学生生活をおくれた。また質問もしやすい環境だった。
- ・研究を行う先輩の姿や専門的な勉強をはやい時期からもっと身近に感じられればよかった。自分の行動力のなさが原因の 1 つではあるが、授業等でそのような機会がもてればさらによかった。
- ・もう少し他学部の授業や他のコースの授業がとりやすい方がいろんな観点から学べるようになると思います。
- ・分野毎の学問のおもしろさを伝えるはずのオムニバス形式の授業が単位の為だけに消費されている様な印象でした。先生と生徒の交流などを増やして学問の楽しさを伝えることがよいと思います。教育学部の学生があまりにも自己中心的です。教育学部でなおかつよさこいサークルなどをしている学生には負えない程自己中心的です。人格を正すような授業を教育学部にいれて欲しいです。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

分属する学生数が少ないこともあり、教員と学生の距離が近く、「研究室での卒論やゼミ」

や「友人との出会い」などの人間関係が大学に対する満足度を高めている。卒論で野外調査や観測を行うことも多く、教員との関わりが多いので良好な関係を今後とも維持できるようにしたい。

専門の授業の配置や難易度についてはおおむね評価されているが、3割程度は今以上の高度な授業内容は積極的には望まないという結果であった。この背景には、高校で物理学や地学を履修しておらず結果として入試でもこれらを選択しない学生が多く、大学で開設されているリメディアル授業も負担感（通年で2単位）から受講しない学生がいることを反映しているように考えられる。アドバイザーによる履修相談時に丁寧な指導を心掛ける必要がある。また、「実験や野外実習の時間を増やしてほしい」との希望が多いが、選択必修という形で開講している実験や野外実習の両方を受講する学生は実際には多くない。自分の興味のある分野での時間増を希望しているということと推測できるが、これについては研究室分属を前提としたケーススタディの中での実験・実習・野外調査を充実させる方向で対応したい。「社会に役立つ授業」で具体的に挙げられているのは、専門教育の内容というよりはプレゼンやコミュニケーション能力のようなものが多いので、これらについては専門科目や卒論などの中で充実させてゆきたい。

II. 集計結果

【所属】

1. あなたの所属するコースを下記より選んでください。

- A. 数学（数理科学）コース B. 物理科学（物質基礎科学）コース
C. 化学コース D. 生物科学コース E. 地球科学（地球史環境科学）コース
F. 情報科学コース G. 応用化学（物質変換科学）コース
H. 海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース
I. 災害科学（防災科学）コース

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	計
卒業者数	52	28	14	41	8	26	30	33	14	246
回収件数	42	21	5	28	7	23	24	35	13	198
回収率(%)	81%	75%	35%	68%	88%	88%	80%	106%	93%	80%

【全般的な質問】

2. 高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。（複数回答可）

- A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生との出会い
D. 友人との出会い E. 課外活動 F. 親からの自立
G. その他（ ）

	A	B	C	D	E	F	G
数学(数理科学)コース	20	25	20	32	19	15	2

○数学(数理学)コース

- ・専門より一般教養が多く感じた。

○物理学(物質基礎科学)コース

- ・自分のコースの特論が5年間1度も開講されなかったこと。

○生物学コース

- ・バイト

4. 教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D
数学(数理学)コース	7	26	8	1
物理学(物質基礎科学)コース	6	9	5	1
化学コース	1	3	1	0
生物学コース	11	16	1	0
地球科学(地球史環境科学)コース	2	4	1	0
情報科学コース	9	13	1	0
応用化学(物質変換科学)コース	7	12	2	3
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	9	20	7	0
災害科学(防災科学)コース	5	8	0	0
合計	57	111	26	5
合計(%)	29%	56%	13%	3%

5. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D
数学(数理学)コース	5	19	11	7
物理学(物質基礎科学)コース	4	6	7	4
化学コース	2	3	0	0
生物学コース	1	12	10	3

地球科学(地球史環境科学)コース	0	4	2	1
情報科学コース	4	9	4	2
応用化学(物質変換科学)コース	6	8	6	4
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	5	13	12	6
災害科学(防災科学)コース	1	8	3	0
合計	28	82	55	27
合計(%)	14%	41%	28%	14%

6. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。

A. ある B. ない

	A	B
数学(数理科学)コース	13	29
物理科学(物質基礎科学)コース	6	15
化学コース	0	5
生物科学コース	8	20
地球科学(地球史環境科学)コース	4	3
情報科学コース	2	21
応用化学(物質変換科学)コース	7	17
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	9	26
災害科学(防災科学)コース	7	6
合計	56	142
合計(%)	28%	72%

7. 6で「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	7	5	1	0
物理科学(物質基礎科学)コース	3	2	1	0
化学コース	0	0	0	0
生物科学コース	5	3	0	0
地球科学(地球史環境科学)コース	3	1	0	0
情報科学コース	2	0	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	1	6	0	0

化学コース	2	4	2	0	2	0	0	0
生物科学コース	6	12	2	5	10	0	1	2
地球科学(地球史環境科学)コース	1	3	0	2	2	0	1	0
情報科学コース	9	10	0	3	5	2	1	0
応用化学(物質変換科学)コース	6	11	6	7	8	0	1	0
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	11	17	5	6	14	0	3	1
災害科学(防災科学)コース	4	6	2	0	3	0	2	0
合計	66	85	25	33	66	3	22	8
合計(%)	33%	43%	13%	17%	33%	2%	11%	4%

【標準履修モデル】

12. 基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていきましたか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. あまり配置されていなかった D. 配置されていなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	12	27	2	0
物理科学(物質基礎科学)コース	7	10	3	0
化学コース	0	4	1	0
生物科学コース	4	22	1	1
地球科学(地球史環境科学)コース	1	5	1	0
情報科学コース	7	15	0	1
応用化学(物質変換科学)コース	7	16	1	0
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	10	23	1	1
災害科学(防災科学)コース	3	10	0	0
合計	51	132	10	3
合計(%)	26%	67%	5%	2%

13. 専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていきましたか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. あまり配置されていなかった D. 配置されていなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	19	21	2	0
物理科学(物質基礎科学)コース	8	10	2	0
化学コース	1	4	0	0

生物科学コース	7	19	2	0
地球科学(地球史環境科学)コース	2	3	1	0
情報科学コース	8	15	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	7	14	2	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	10	22	1	1
災害科学(防災科学)コース	6	7	0	0
合計	68	115	10	2
合計(%)	34%	58%	5%	1%

14. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください）。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。

- A. 合致していた B. 概ね合致していた
C. あまり合致していなかった D. 合致していなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	7	33	1	0
物理科学(物質基礎科学)コース	7	12	1	0
化学コース	0	5	0	0
生物科学コース	5	22	1	0
地球科学(地球史環境科学)コース	1	4	1	0
情報科学コース	7	16	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	7	15	0	2
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	7	27	0	0
災害科学(防災科学)コース	5	8	0	0
合計	46	142	4	2
合計(%)	23%	72%	2%	1%

【専門科目への要望】

15. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	5	23	14	0
物理科学(物質基礎科学)コース	5	4	10	1
化学コース	2	1	2	0

生物科学コース	2	15	11	0
地球科学(地球史環境科学)コース	2	3	1	1
情報科学コース	4	14	5	0
応用化学(物質変換科学)コース	4	10	10	0
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	6	12	14	2
災害科学(防災科学)コース	1	8	4	0
合計	31	90	71	4
合計(%)	16%	45%	36%	2%

16. 「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	3	11	23	5
物理科学(物質基礎科学)コース	1	7	7	5
化学コース	0	0	4	1
生物科学コース	0	9	15	4
地球科学(地球史環境科学)コース	1	3	3	0
情報科学コース	0	5	16	2
応用化学(物質変換科学)コース	0	8	13	2
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	3	12	17	2
災害科学(防災科学)コース	0	0	12	1
合計	8	55	110	22
合計(%)	4%	28%	56%	11%

17. 「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	5	10	17	10
物理科学(物質基礎科学)コース	3	6	6	5
化学コース	0	1	12	2
生物科学コース	9	11	8	0

地球科学(地球史環境科学)コース	2	4	1	0
情報科学コース	1	3	8	1
応用化学(物質変換科学)コース	8	8	4	4
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	11	13	7	2
災害科学(防災科学)コース	5	6	2	0
合計	44	62	65	24
合計(%)	22%	31%	33%	12%

18. 「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	8	11	21	2
物理科学(物質基礎科学)コース	2	5	9	4
化学コース	1	1	2	1
生物科学コース	9	9	8	2
地球科学(地球史環境科学)コース	2	1	4	0
情報科学コース	9	7	6	1
応用化学(物質変換科学)コース	6	7	9	2
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	6	12	11	5
災害科学(防災科学)コース	6	2	4	1
合計	49	55	74	18
合計(%)	25%	28%	37%	9%

19. 18 で A あるいは B を選択した人にお聞きます。社会に出て役立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。

○数学(数理科学)コース

- ・グループワーク
- ・実際の場面やその対応など。
- ・人の話を聞く力（コミュニケーション能力）、あいさつができること、あうんの呼吸
- ・どのような所に使われているのかなどを教えてくれると、イメージが変わったりすると思う。
- ・専門分野における身近な部分との関連のはなし。コンピュータを使ってできる便利ツ

ルについて知りたい。

- ・企業や社会のしくみ 福利厚生についてのこと。
- ・論理的に説明できる力 プレゼンテーション力 レポートの書き方（何がどう書くことで正しいレポートなのか）
- ・社会に出て、必要なルールやマナー。
- ・仕事をするときに役立つこと。
- ・パソコンスキルなどの IT 関係
- ・コミュニケーション力や仕事体験
- ・実用的な内容など。
- ・教員の一方的な講義だけでなく、実際に社会で活やくしている人を呼び、話さしてもらうなど。
- ・社会と数学との関連など。

○物理科学(物質基礎科学)コース

- ・グループワーク等チーム活動
- ・プレゼン発表とプレゼン力
- ・働くのに必要な技能を身につける
- ・簡単に話せて話のネタになること
- ・実験等に製品として出ているものを解体して仕組みをみたりするなど

○化学コース

- ・ビジネスマナー、敬語。

○生物科学コース

- ・社会人としての基礎知識やタブーなどを学べる授業があってもいいのでは
- ・ビジネスマナー、パソコンの使い方など（word や Excel などについてもっと詳しく授業で学べたらいいなと思います。）
- ・社会に出て役立つことというよりも、社会に求められる人材、社会の理不尽に耐えられるようにする、社会に出て役立つことであれば資格を取れるような授業を多くすればいいのではないかと考える。
- ・プレゼンテーション能力など。
- ・プレゼンテーション能力。
- ・マナー講習など。
- ・Office スキルなど。
- ・人間関係、人づきあい。
- ・社会人として大学中にしておいた方が良かったことをその学部の卒業生が話しにくる。

- ・仕事に直接つながるような内容。
- ・酵素について、発酵について等々。
- ・グループワークなどのコミュニケーション重視のもの。
- ・社会に出て使う正しい文章の書き方。
- ・社会に出た時のマナー。
- ・社会人と接すること。
- ・高知の風土を活かした授業。

○地球科学(地球史環境科学)コース

- ・近現代史、経済学
- ・地質又は岩石がどのような過程を経てそこにあるのかを考えるだけでなく、人間社会にどのようなメリット、デメリットを生み出すか考えること
- ・社会人との交流！

○情報科学コース

- ・グループワークやプレゼンアプリを使った発表
- ・サーバー側の構築の授業を取り入れて欲しい
- ・コミュニケーション能力、事務処理
- ・企業の人のセミナーなど
- ・情報コースであれば就職後にどのような仕事をするのか説明した上で 2~3 年にわたってその職業に特化した授業なんか楽しいかもしれません
- ・グループワークや発表が多いこと
- ・プレゼン発表力
- ・学生までの立場では知り得なかったことなど
- ・プレゼンテーション能力
- ・文章作成能力
- ・専門技術
- ・言語力
- ・実技
- ・システム開発時のシステム構成図の作成

○応用化学(物質変換科学)コース

- ・専門的なもの以外の先生の話の中に色々と為になることがある。
- ・金になる授業。
- ・GD など。
- ・プレゼンテーションやコミュニケーション能力を育むことができる授業。

- ・ 機器等（←少ない）の扱い方。

○海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ 放射系、遺伝子、化学、具体的な事例と合わせて。漂白剤で色が抜ける等。
- ・ 社会人との交流。
- ・ 人前に出て話せる。
- ・ ビジネスマナー等。
- ・ 英語の使い方
- ・ 何が社会に出て役立つか、を学びたい。
- ・ 理学部的なことだけでなく工学部的なものを学ぶこと。
- ・ プレゼンを多くいれると社会人になって役立つ。
- ・ プレゼンかディベートを使うものがあるとか。
- ・ 実践的な知識。
- ・ 実際の社会で大学で学んだことを実感できるような授業。
- ・ 地域の方と関わるようなこと。

○災害科学(防災科学)コース

- ・ ビジネスマナーに関する授業（接待など）
- ・ 一般教養
- ・ 例えば将来の職につながる授業
- ・ コミュニケーション能力の向上。
- ・ プレゼン能力
- ・ コミュニケーション能力。
- ・ 個人の将来設計などが具体的であるかや大丈夫であるか確認するようなこと。

【成績評価】

20. これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった D. 適切でない授業がたくさんあった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	13	17	11	1
物理科学(物質基礎科学)コース	10	6	5	0
化学コース	3	1	1	0
生物科学コース	6	14	3	1
地球科学(地球史環境科学)コース	2	5	0	0

情報科学コース	7	14	2	0
応用化学(物質変換科学)コース	4	13	5	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	5	23	5	1
災害科学(防災科学)コース	4	6	2	0
合計	54	99	34	4
合計(%)	27%	50%	17%	2%

【授業改革】

21. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思いますか。

- A. 適切である B. 概ね適切である
C. 足りない D. 多すぎる

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	14	24	4	0
物理科学(物質基礎科学)コース	6	13	2	0
化学コース	3	2	0	0
生物科学コース	6	18	0	0
地球科学(地球史環境科学)コース	2	3	1	1
情報科学コース	6	14	2	1
応用化学(物質変換科学)コース	7	14	2	0
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	5	23	5	1
災害科学(防災科学)コース	5	6	1	0
合計	54	117	17	3
合計(%)	27%	59%	9%	2%

22. 21 で C あるいは D を選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください。

○数学(数理科学)コース

- ・一方的に話す授業
- ・授業がかぶって受講できないものがある。集中講義が少ない。
- ・授業数事態を、一学期、二学期ともに増やしてほしい。また集中についても同様。農学部

○物理科学(物質基礎科学)コース

- ・物理関係の科目が少なく、さわりだけしか授業で学べないことがある。統計力学等。

・物理に必要な数学をもっと学べる講座が欲しいです。(ベクトル解析、微分方程式など1つを中心に授業で扱う形で...)

・演習をもっとわかりやすいようにして欲しい。

○生物科学コース

・オムニバスの授業を減らす。

○地球科学(地球史環境科学)コース

・専門科目が少ない。

○情報科学コース

・専門分野の授業数を増やして欲しい

・情報コースであれば、行われている学習分野の拡張や、高レベルのプログラミングや、多分野のプログラム記述言語の授業があれば受講してみたかったなと思いました

・一般教養が多い

○海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

・より発展的な内容の授業を増やして欲しかったです。

・化学でも特にフロンティア軌道論など、理論的なこともやってほしい。

・集中講義をもっと増やして欲しい。外部の方の話を聞く機会を増やして欲しい。

・実験や実習、あるいは専門的に特化した授業。

【アドバイザー教員制度】

23. アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか。

A. 適切であった

B. 概ね適切であった

C. あまり適切でなかった

D. 適切でなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	33	9	0	0
物理科学(物質基礎科学)コース	14	6	1	0
化学コース	1	2	1	1
生物科学コース	14	10	0	0
地球科学(地球史環境科学)コース	5	1	1	0
情報科学コース	17	6	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	9	13	0	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	16	14	2	2

災害科学(防災科学)コース	9	3	0	0
合計	118	64	5	4
合計(%)	60%	32%	3%	2%

24. 総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったですか。

- A. とてもよかったですと思う B. おおむねよかったですと思う
C. あまりよかったですと思わない D. よかったですと思わない

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	24	17	1	0
物理科学(物質基礎科学)コース	8	11	2	0
化学コース	1	4	0	0
生物科学コース	9	15	0	0
地球科学(地球史環境科学)コース	1	5	1	0
情報科学コース	15	7	1	0
応用化学(物質変換科学)コース	6	14	2	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	10	22	2	0
災害科学(防災科学)コース	6	6	0	0
合計	80	101	9	1
合計(%)	40%	51%	5%	1%

25. 理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください。

○数学(数理科学)コース

- ・4年間お世話になりました。ありがとうございました。
- ・数学コースのゼミ配属が4年生からというのは遅いのではと感じています。3年生の頃からゼミの仲間と高めあっていけたらよかったかなと思います。あと他の学部やコースの人たちは研究室というものがあるそうで、それがとてもうらやましく思います。数学コース全員というのは難しいかもしれませんが、上位成績の人で希望する人は、という形で早めにゼミをすとか無しですか？
- ・教育学部以外の教職を目指す学生への教育的配慮（模試）が傾っていないかを見直して欲しい。
- ・就職活動（一般企業）に対して情報が少なく、大学の求人にひかれるものがほとんど無い。
- ・数学の専門情報処理がもう少し分かりやすくなればいいなと思いました。
- ・理学部生としての知識が十分についたと満足には言えませんが、それ以上に得るものが

多かった所以我は高知大を選んで良かったと思います。

- ・数学コースは少し、2回生に履修が多いと感じた。
- ・入試が簡単だったのもう少し難しくした方が良いと思います。
- ・数学科の学生にもう少し理学部棟に勉強できる場所を与えて欲しいです。

○物理科学(物質基礎科学)コース

- ・ピアサポートの継続。
- ・質問対応の充実。
- ・研究室がない人が勉強できるスペースがメディアの森しかない。個別のブースに分かれている勉強場所が欲しい。
- ・理学部の授業では授業単位での内容の体系化はなされているものの、他の授業と統合して見た場合、不十分なところが出てくる。〇〇の授業でやっていない内容について「〇〇の授業でやったよね。」と言われてたり、他の授業で学習した内容について同じような説明がなされたり。
- ・共通教育の中には間違ったアクティブラーニングを行う授業がまざっている。これは学生の意欲を奪うだけで、何の意味もなさないのでは正が必要だ。

○生物科学コース

- ・宇佐の研究室は素晴らしい。
- ・4年からいきなり研究室というのは少し環境が変わりすぎると思いました。全員がもう少し早く顔を出すような環境を作れば研究も楽しいものになると思いました。
- ・高校の授業とあまり変わらないものもあるので、自分で考察する系の授業も欲しい。
- ・もっと早めに研究室配属を決めるべきである。就職活動とかぶってしまって、卒論も納得のいくものではなくなってしまっている。単位取得上限というか、前期・後期でとれる単位に上限があるのは適切ではないと感じた。上限をなくせば、幅のある教育や人材が育てられるのではないかと考える。それと食堂にカレーうどんが欲しかったです。
- ・難易度によっておもしろい授業とおもしろくない授業があった。

○地球科学(地球史環境科学)コース

- ・キャンパス間バスが欲しいです。
- ・理学部を理工学部にする意味がない。
- ・地球科学コースの解体が理解不能。
- ・興味や自信を生徒がもてる教育を今後も続けてください。

○情報科学コース

- ・1回生、後期のコース選択は遅い

- ・後期の学問基礎はやる意味を感じない
- ・前期でコース選択に必要な授業があるのに、学問基礎でコースの紹介をしても無駄だし、出席する意味を見いだせないのに、単位は必要で、本当に大学生活で一番無駄な時間だった
- ・他の大学や他学部との連携を進めてほしいです
- ・大学の先生に研究する時間をもっと増えるようにいろいろ何とかした方がいいと思う
- ・就職室は理工系（情報は特に）への対応が不十分なので意味なし。所属の就職担当教員に相談する方が時間の無駄にしないで良いと思う
- ・情報棟のグラウンド側の通路が雨の時、川になるので舗装してほしい
- ・情報コースは専門の授業が少なく、高いレベルの授業が少ない印象であるため、一部の人向けのマニアックな授業があれば受講してみたかったと思いました。ただ、数学系、物理系の授業はとても苦労したのでレベルのバランスがとれればよいのではないのでしょうか？

○海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・scifinderを導入して欲しい！後輩のためにも！高知大の化学のためにも！！
- ・4年間お世話になりました。ありがとうございました。
- ・理学部で開かれている教職の授業を改善してほしい。
- ・シラバスが見にくいので改善すべき。

○災害科学(防災科学)コース

- ・先生と学生のキョリが近くて楽しい学生生活をおくれた。また質問もしやすい環境だった。
- ・研究を行う先輩の姿や専門的な勉強をはやい時期からもっと身近に感じられればよかった。自分の行動力のなさが原因の1つではあるが、授業等でそのような機会がもてればさらによかった。
- ・もう少し他学部の授業や他のコースの授業がとりやすい方がいろんな観点から学べるようになると思います。
- ・分野毎の学問のおもしろさを伝えるはずのオムニバス形式の授業が単位の為だけに消費されている様な印象でした。先生と生徒の交流などを増やして学問の楽しさを伝えることがよいと思います。教育学部の学生があまりにも自己中心的です。教育学部でなおかつよさこいサークルなどをしている学生には負えない程自己中心的です。人格を正すような授業を教育学部にいれて欲しいです。